

ベンチャービジネス・レビュー第12号刊行に当り

ベンチャービジネス研究所所長
経営学部教授 中小企業診断士 水野 浩児

このたびベンチャービジネス・レビュー第12号が刊行される運びとなりました。ベンチャービジネス研究所発足当初より、活動報告を兼ねて発刊してきたベンチャービジネス・レビューが12冊目の発刊を迎え、内容も充実していることを実感しています。ベンチャー企業を含めた中小企業の経営環境に必要なスキルは変化しており、特にITを経営に取り入れ活用することが年々重要になっています。人材不足が社会問題となっている状況下、クラウド化とネットワーク環境整備などによりビジネス効率化に取り組む経営者が増えています。そのような環境変化をベンチャービジネス研究所の所員が敏感に察知し、連携いただいている企業さまのお知恵をお借りしながら、実務に役立つ研究を進めました。

産学連携の強化などを含めた大学の社会的役割が注目されるなか、教育研究活動のかたわら、本研究所の研究活動にご尽力願っている学内外の所員、研究員の皆様に、この場をお借りして心から敬意と共に、刊行のお礼を申し上げます。

ベンチャービジネス研究所では、以前より、1・学生が成長でき活躍できる研究所、2・所員・研究員の研究成果を積極的に公表する研究所、3・地域社会に貢献できる研究所を軸に掲げ活動を行っています。2019年度の活動としては、学生主体で動いている北摂エリアマッププロジェクトがあります。このプロジェクトは学生アイデアの活用で、SNSなどITを上手く利用し、時間をかけて北摂ブランドを構築するものでInstagramのフォロワーは2,000人を超えるコンテンツに成長しています。このプロジェクトは、吹田のエキスポシティ内にありますEXPO観覧車合同会社さまからご支援を頂き、北摂エリアマッププロジェクト（通称：ほくせつ探検大学）が作成しました北摂7市3町のリーフレットを観覧車施設内で配布頂いたり、学生が作成した動画を施設内で上映して頂くなど、地道に研究・教育を行ってきた成果が形になって現れた事業年度でした。

多くの学生は卒業して就職することを選びます。また売手市場が続く就職事情の下、学生の大手志向の傾向が強まり、ベンチャー志向の学生は減少しているような印

象を受けます。しかし、そのような中においても、地道にベンチャー企業を起業するための基礎知識や起業家精神を涵養することは、本研究所の使命だと考えています。2019年秋には茨木市さまと共催で起業セミナーを開催し、多くの学生が参加しました。崇高な使命感の中、本学ベンチャービジネス研究所では、起業精神を持っている学生たちの期待に応えるべく、産学連携を含めた様々な取組を行っています。

2018年度より、本学がサイネックス株式会社さまと連携協定を行い、研究・教育の面で全面的に協力いただいております。そして、北おおさか信用金庫さまとの連携事業として取り組んだ「北摂エリアマッププロジェクト」では引き続き技術面や教育指導でサポートいただき、学生が主体的に動いて活動している北摂ブランドの構築が大きく前進しました。またグッズコンテストではりそな銀行茨木西支店さまにご協賛いただき、無事盛会裏に終了することができました。ビジネスプランコンテスト事業では、昨年に続きフジテック株式会社さまにご協賛いただき、コンテストを盛り上げていただきました。企業経営に関与されている審査員の方々から個々に講評いただけたことは、参加学生の将来において役立つものだと感じました。ここでの紹介は氷山の一角ではありますが、数多くの協力を得て、社会に役立つ活動を行いながら、地道に研究所は進化していることを実感しております。

新キャンパスが完成し、追手門学院大学や茨木市は注目されています。この激動の時代において、大学の教育機関、研究機関としての役割を強く再認識し、ベンチャービジネスの研究を進め、本学ベンチャービジネス研究所をベンチャー企業創出・育成のハブとして確立し、日本経済の発展に寄与して行きたいと考えています。

このような中、2019年度ベンチャービジネス研究所の活動を振り返ってみたいと思います。

1. 2019年度活動の報告とその成果

(1) 学生支援

① 第10回追大学生ビジネスプランコンテスト開催 (フジテック株式会社 協賛)

応募総数114組、403名（内、追手門学院大手前高校生28組88名、大阪高等学校7組19名）

12/12ビジネスプラン発表会にて1次審査通過者18組70名（内、追手門学院大手前高校生2組6名、大阪高等学校1組3名）最優秀賞1組、フジテック特別賞と奨励賞のW受賞1組、高校生敢闘賞と優秀賞のW受賞1組、優秀賞3組、奨励賞5組が決定。

そして、2/29(土)関西ベンチャー学会主催第19回年次大会「学生ビジネスプランコンテスト」に本学コンテスト最優秀賞を受賞したチーム「スッキリ！」が出場予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防のため中止となり、残念ながら4年連続最優秀賞獲得とはならなかった。

② 第6回グッズコンテスト開催 (りそな銀行茨木西支店 協賛)

応募総数126組438名（内、追手門学院大手前高校生27組88名、追手門学院中学校6組23名）

7/11グッズアイデア発表会にて1次審査通過者18組67名（内、大手前高校生2組6名、追手門学院中学校1組4名）がプレゼンテーションを行い、最優秀賞とりそな賞のW受賞1組、優秀賞各部門1組計2組、奨励賞各部門3組計6組が決定。

また入賞者の中から、2作品商品化された。商品名：「リフレクタン（折り畳み式うちわ）」、「ブックストッパー」。商品化されたものは、主にオープンキャンパスや研究所活動（茨木フェスティバル、コンテスト事業、きたしんビジネスマッチングフェア）や研究・社会連携課内でのイベント（スポーツ研究センターでのサッカー教室、野球教室）や大学来訪者などへ配布される。

(2) 地域連携

① 茨木フェスティバル出展 (茨木商工会議所商業部会共催)

7/27、28の2日間、昨年度と同様、市民の方を対象とした「茨木の交通と暮らし」をテーマにしたアンケートを実施し、茨木市の商業施設に関する質問や、現在急速に進んでいるキャッシュレス化に関

する内容をアンケート項目に盛り込んだ。学生研究員達が参加し、2日間で合計1000名の方に回答いただき、アンケート結果を学生研究員が入力、そして池田所員が分析を担当した。その結果をニュースレターに報告書としてまとめ、地域商業の発展に役立てて頂くために茨木商工会議所商業部会へ報告、開示、さらには茨木市へも報告される。

② 北摂エリアマッププロジェクト（通称：ほくせつ探検大学）（北おおさか信用金庫、株式会社サイネックス及び本学北摂総合研究所との産学連携共同プロジェクト）

学生研究員が中心となり、北摂エリア（7市3町）の魅力を引き出し、地域創生に役立つことを目的として3つの媒体（電波（ラジオ）・IT（ネット）・紙）を用い、発信した。また2019.8.20北おおさか信用金庫本店にて「北摂広域市町村産業振興連携会議」情報交換会に参加させて頂き、現在のプロジェクト活動について報告、2019年7月には日本経済新聞社の取材を受け、7/10付け朝刊の「キャンパス発この一品」のコーナーでこのプロジェクトが紹介され、全国からたくさんの方の反響が寄せられた。一昨年7月株式会社サイネックスと本学が連携協定を結んだことから、今年度も引き続きプロジェクト活動において地方創生のノウハウや各媒体における技術面などご支援を頂いており、今後も更なる飛躍が期待できる。2019年8月には、7市3町の各リーフレット及び全市町総合リーフレットの11種類が完成し、北おおさか信用金庫の各支店や本学総持寺キャンパスなどで配布された。さらには、吹田のエキスポシティ内にありますEXPO観覧車合同会社からもご支援を頂き、このリーフレットを観覧車施設内で配布して頂いたり、学生が作成した動画を施設内で上映して頂くなど、様々な面でご協力を頂いた。現在、学生たちもプロジェクト4期生たちが中心となって活動しており、引き続きSNSなどにおいて情報の更新や紙媒体においてもブラッシュアップを行い、活動継続中である。

なおこの活動は、2016年9月からのプロジェクトであり、プロジェクトに係る予算は北おおさか信用金庫、株式会社サイネックス（2018.7～）に各市町を交えて検討を行いながら進めている。また、ケーブルテレビジェイコムが活動の様子を定期的に

報道し、北摂ブランド構築のため産官学金言が連携した活動になっている。

③ 岡山県鏡野町のアンテナショップ

2018年度より始まったD・A・E社と地域農業の発展の取組であるが、北おおさか信用金庫様にも引き続きご協力を頂き、岡山県鏡野町のアンテナショップ（茨木市）も好調で、葉山所員を中心として学生と共に「かがみの通信」(No.1～5)を発行した。

④ きたしんビジネスマッチングフェア出展

11/6～7の2日間、北おおさか信用金庫主催のマッチングフェアに今年も出展した。大学、研究所のPRをはじめ、「北摂エリアマッププロジェクト【通称：ほくせつ探検大学】」の広報及び展示やアンケートなどを実施し、大勢の来場者に参加頂いた。学生研究員11名が2日間で延べ約300名と対応した。

⑤ 茨木市商工労政課との意見交換会

5/23、7/31、9/26、11/15、1/17実施。今年度も、「第10回追大学生ビジネスプランコンテスト」においてご後援頂き、また2019.10.10には本学でベンチャービジネス研究所、商工労政課共催「学生向け起業セミナー」を開催して頂くなど（下記3.にも記載あり）各イベント等で連携を模索中。

(3) 出版事業（大学出版会）

『これからの中小企業経営に必要な施策と活用』

中小企業経営に関する研究を経営学部の教員が継続的に行っており、研究者の専門性を企業経営に役立てる内容にアレンジしたものを出版し、社会に資する活動の一環として取り組んでいる。

2. セミナー・講演会等の開催（日時・場所・内容・参加者数・成果）

(1) 中小企業経営支援セミナー

（きたしんビジネスマッチングフェア同時開催）

日時：11月6日(水) 13:00～14:00

会場：マイドームおおさか

テーマ「中小企業こそ産官学連携

～文系大学とのコラボの「ツボ」～

講師：村上 喜郁（経営学部准教授・ベンチャービジネス研究所副所長）

参加者数：約30名

成果：きたしんビジネスマッチングフェアの会場で大勢の参加者に対して首記内容のセミナーを実施し、イベントの趣旨に沿って会場の盛り上げにも貢献し、本学の知名度や研究成果を広く社会にお伝えすることができた。

3. 研究会・学会等の開催

（日時・場所・内容・参加者数・成果）

学生研究会（春学期5回、秋学期5回 全10回）

木曜日4限・5限（15:00～18:10）

（5/16、5/30、6/6、6/27、7/4、10/3、10/17、10/31、11/28、12/5）

内容：Macを使用しているプログラミング講座、グッズコンテストやビジネスプランコンテストへ向けての指導、プレゼンテーション指導などを外部講師が行った。

参加者数：全10回延べ約240名が参加

成果：グッズコンテスト：

学生研究員11組48名が応募

ビジネスプランコンテスト：

7組（29名）が応募し、2次審査へは1組（5名）が選出された。

茨木市商工労政課と共催の「（学生向け）起業セミナー」【2019年10月10日(木)】に学生研究員より約29名また他大学より2名が参加。地元の起業家を講師に迎え、講義&グループワークを開催。起業を身近に感じることが出来、実践して学べた。

4. その他刊行物

①研究所紀要「ベンチャービジネス・レビュー」第12号
刊行日：3月末予定（電子出版）

②Newsletter vol.22 刊行日：3月末予定

③「ビジネスプラン発表会」報告書 刊行日：2月下旬予定

④『これからの中小企業経営に必要な施策と活用』（大学出版会）刊行日：3月末予定

5. 所員会議（日時・場所・内容）

月1回（8月を除く）（木曜日、12:45～13:15、場所：研究棟6階事務共用スペース）

（4/18、5/16、6/13、7/18、9/12、10/24、11/14、12/19、1/16、2/20、3/12）

内容：研究所内外におけるイベント、講演、研究、出版、
プロジェクト関係等についての報告、連絡、相談、
検討など

6. その他

・オープンキャンパス参加

(8/17, 8/18, 9/8 計3日間)

学生研究員(3名)が、来場した高校生にビジネスプランコンテストなどの応募方法や学生研究会の活動内容を説明した。

最後になりますが、ベンチャービジネス研究所の活動にご協力頂きました、茨木商工会議所(商業部会)、茨木市、大阪市、北おおさか信用金庫、株式会社サイネックス、りそな銀行茨木西支店、フジテック株式会社、EXPO観覧車合同会社、D・A・E株式会社、大阪彩都総合研究所、日本政策金融公庫、アプリル株式会社、ラジオ大阪、ジェイコム、校友会、山桜会、アンケートにご協力頂いた茨木市民の皆様にはこの場をお借りして心からお礼申し上げます。